

「柿元」のはなし

蜂屋町中蜂屋に柿元(かきもと)という地名があります。

江戸時代、献上するための蜂屋柿を取りまとめる施設として、尾張藩が「御柿屋(おかきや)」を建てました。「御柿屋」には上納するための蜂屋柿が各地から集められました。その場所は、現存する古地図による裏付けで、現在の中蜂屋の柿元の辺りだったと考えられています。

柿元という名は、かつてここに「御柿屋」があり、蜂屋柿の重要拠点だったことに由来すると考えられています。



御柿屋が描かれる古地図
(瑞林寺境内絵図 1775(安永4)年 瑞林寺蔵)



柿元遠景(大仲寺公民館付近)